

令和6年度 第3回 帯広市地域公共交通活性化協議会 議事概要

日 時	令和7年3月28日（金）13時30分～14時30分
場 所	帯広市役所10階 第6会議室
出席委員	会長、長沢委員（吉田代理）、小森委員、道見委員、千葉委員、寺山委員、塚本委員、徳田委員、皆川委員、久保委員（越智代理）、石山委員、小林委員、佐々木委員（Web出席）、高橋委員、齋藤委員（藤本代理）、佐藤委員（野原代理）、高木委員、西島委員、（以上18名）
オブザーバー	横塚氏（Web出席）、野島氏（Web出席）、村上氏（Web出席）
事務局	中田都市政策課長、中島都市政策課長補佐、高橋交通政策係長、豊田主任、関主任補
配布資料	会議次第、出席者名簿（資料1）、令和6年度帯広市公共交通活性化協議会路線網再編分科会議事概要（資料2）、自動運転社会実装推進事業最終報告書（資料3）、バス路線確保のための連絡会議議事概要（資料4）、おおぞライナーの運行終了（廃止）について（資料5）、夜のコミタク・部活コミタク実績報告（資料6）、モビリティハブと人流・物流サービスの連携・協働モデル構築（資料7）、地域交通業界のルーキー育成事業（資料8）

【次第】

- 1 開 会
- 2 議 事

（1）報告事項

- ・報告第1号 路線網再編分科会の協議状況について
- ・報告第2号 帯広市内における自動運転実証事業について
- ・報告第3号 令和7年2月の大雪への対応について

（2）協議事項

- ・議案第1号 「おおぞライナー」の運行終了について

（2）その他

- ・令和6年度地域公共交通共創モデル実証プロジェクトの実施状況について

- 3 閉 会

【会議概要】

2 議事

（1）報告事項

報告第1号 路線網再編分科会での協議状況について

（事務局）

《資料2に基づき説明》

（会長）

ただいまの説明について質問、意見、補足等あるか。

(委員)

先日の分科会で提案があった内容については、現在の路線を循環型にすることがシンプルにまとめられていると感じたところで、2社の路線の循環により利便性向上を図れればと述べさせてもらった。

(会長)

乗り継ぎが発生すると運賃体系の整理が課題になるので、引き続き分科会で議論いただきたい。

報告1号について、以上のとおりとする。

報告第2号 帯広市内における自動運転実証事業について

(事務局)

《資料3に基づき説明》

(会長)

ただいまの説明について質問、意見等あるか。

(委員)

大雪で運行できなかったとのことだが、一つの現実だなと感じる。資料の中で、技術面での評価というのは、運行できる環境を前提とした評価だと思うが、冬季に積雪のある帯広においては除雪体制などが一体とならないと総合的な評価は難しいと感じる。大雪により実証運行できなかったこと自体が1つの課題。事業評価において、利便性に加えて、運行できる環境づくりを加える必要があるのではないか。

(事務局)

目標に対する考え方について検討していく。

(会長)

例年と同程度の降雪であれば運行は可能だったが、道路幅が変わってしまうほどの記録的な大雪では、車両の仕組み上、再度のマッピングが必要となった。今後に向けて検証していかなければならないと考えているところ。

報告2号について、以上のとおりとする。

報告第3号 令和7年2月の大雪への対応について

(事務局)

《資料4に基づき説明》

(会長)

ただいまの説明について質問、意見等あるか。

(委員)

今回、現場で直接見ながら道路幅などについて打合せできたため、運転手からもよかったと聞いている。大変ありがたかった。

(委員)

道路幅が広く2車線道路のため、国道を通る路線はすぐに運行を再開できた。一方で、市内の路線については、歩道の除雪が進まず歩行者が車道を歩いているため、路線バスが運行するには危険な状態であると発言させてもらった。

また、路線バスが運行していないため、高校生の通学のため家族による送迎が増加し渋滞を招いていたことから、通学路線を優先的に再開したい旨述べたところ、該当する道路に優先的に除雪が入り、速やかな運行再開につながった。

バス路線は市内から近隣自治体につながっており、通勤通学で自治体を跨ぐ移動もあることから、音更町や芽室町、幕別町などとも情報共有できれば、一層スムーズに路線を再開できるのではないかと感じている。

(委員)

降雪当日である4日は、一部のタクシー会社は透析患者の通院のためになんとか運行した。

翌5日は、帯広空港に飛行機が着陸した。羽田空港では、空港連絡バス運休のアナウンスがあったようだが、それでも何とか乗るだろうと搭乗した人がいた。道路状況の悪化で通常よりも運転に時間がかかる上、タクシーの台数が足りなかったため、空港ビルから移動できなくなる人が出ないように、北海道エアポートが主導して乗合の形をとることで対応した。

(会長)

2月の大雪は、公共交通の重要性についても再認識する機会になった。

「バス路線確保のための連絡会議」は、国・道・市の道路管理者と交通事業者や関係者の認識を一致させることを目的に開催したもの。今回のことを教訓にして、今後も緊急時には連絡体制をとっていきたい。

報告3号について、以上のとおりとする。

(2) 協議事項

議案第1号 「おおぞライナー」の運行終了について

(十勝バス)

《資料5に基づき説明》

(会長)

ただいまの説明について質問、意見等あるか。

(委員)

予約の窓口は運行終了とともに閉鎖するのか、それとも一定期間は問い合わせを受ける予定か。

(十勝バス)

利用登録されている方には運行終了を直接伝えているほか、大空地区でも周知をしていることから、運行終了とともに窓口も閉鎖する予定。

(会長)

その他、質問、意見等あるか。

《意見等なし》

(会長)

議案1号については本案のとおり決定ということでよろしいか。

《意見等なし》

(会長)

異議なしということで、本案のとおり決定する。

(3) その他

令和6年度地域公共交通共創モデル実証プロジェクトの実施状況について

(TK タクシー)

《資料6に基づき、「夜のコミタク・部活コミタク」について説明》

(会長)

ただいまの説明について質問、意見等あるか。

《意見等なし》

(会長)

それでは次の事業について、十勝バスより説明いただく。

(十勝バス)

《資料7に基づき、「モビリティハブと人流・物流サービスの連携・協働モデル構築」について説明》

(会長)

ただいまの説明について質問、意見等あるか。

《意見等なし》

(会長)

それでは次に、一般社団法人交通環境まちづくりセンターの事業について、事務局より説明する。

(事務局)

《資料に基づき、一般社団法人交通環境まちづくりセンターの「地域交通業界のルーキー育成事業」について説明》

(会長)

ただいまの説明について質問、意見等あるか。

《意見等なし》

(会長)

本日の議事は以上になるが、全体を通して質問、意見等あるか。

(委員)

本日の議題と直接の関係はないが、藤丸の建替えが数年後にあると思う。その際、路線バスの停留所やタクシー乗り場などはこれまでと同じ位置になるのか、今から再編等検討していくのか。

(委員)

市としては、藤丸が新しい建物を建てるにあたり、十勝バスなどと交通利便を図れないかという話をしていると聞いている。ただ、バスターミナルのような大掛かりなものではなく、バス停の移動程度のことと捉えている。そもそも藤丸ビルはまだ取り壊しできていない段階であり、そのようなことを検討するのであれば取り壊した後になるが、最速で2030年。

(委員)

藤丸の再建は民間事業だが、公共性が付帯されるものと考えている。2月のような大雪を考

えると、従来通りの屋根だけのバス停ではなく、施設内で乗降できるなど安心して乗降ができる場所が必要と考える。

再建が進んでからだと出来ることが限られる。まちづくりという視点からも、安心して集まれる、待ってられるなど、複合的に考えながら、想定される人の流れや、出来ることと出来ないことについて整理・検討しては。

(会長)

現状、藤丸が明らかにしているのはたたき台程度であり、そのような乗降機能は示されていないが、帯広市公共交通計画の中でもバス待合所の充実を謳っており、今後いろいろな話が出てくるだろうが、事業者の考え方や様々な観点を踏まえて検討していくことが必要。

(会長)

その他、質問、意見等あるか。

《意見等なし》

(会長)

以上をもって令和6年度第3回帯広市地域公共交通活性化協議会を終了する。